



MINATO TOKYO

Bulletin

みなと
ユネスコ

MINATO UNESCO ASSOCIATION NEWS & CALENDAR

ISSUED BY/MINATO UNESCO ASSN. 16-3,SHIMBASHI 3-CHOME MINATO-KU TOKYO 105-0004/HIROSHI NAGANO PRES.
発行所/港ユネスコ協会 〒105-0004 東京都港区新橋3-16-3 TEL・FAX 03(3434)2233 発行人/永野博
Mail:info@minatounesco.jp http://minato-unesco.jp

2016年12月1日発行 第146号

目次	
P1 巻頭言	P8-10 国際理解講演会「バイリンガルの子ども達」
P2-6 UNESCO ユースフォーラム in みなと	P10 関東ブロックユネスコ活動研究会 in 東京
P7 みなと区民まつり	P11 アメリカ南部の家庭料理
P7 MUA サロン	P12 事務局便り / 編集後記

文化財はなぜ大切な？

副会長 宮下ゆかり



11月初旬、奈良の飛鳥路を訪ね、お寺や遺跡を見て回りました。青空の下、田んぼや畑の中を縫ってレンタサイクルのペダルを踏むのは爽快でした。

飛鳥路の魅力は、のんびりした田園風景と、謎に満ちた多くの遺

跡です。例えば「石舞台古墳」は、誰のお墓なのか？何故石室がむき出しなのか？何の用途に使われたのか分からない遺跡もあちこちにあります。

最も印象に残ったのは、高松塚古墳でした。壁に描かれた飛鳥美人たちは色鮮やかで、その服装は高句麗古墳のものと似ているそうです。四神は古代中国の思想に基づく一方、日本独自の画風も見られるとか。

当時のご先祖様たちは、中国大陸や朝鮮半島からの文化や技術に触れて驚き、尊敬し、模倣し、吸収しつつも、一方で徐々に自分流に代える努力もあったのでしょ。盗掘があつたにもかかわらず、これらの文化財が残されていたことは幸運でした。

壁画つながりで思い出すのは、アフガニスタンの

バーミヤン遺跡です。2001年3月、無残にも崩れ落ちるバーミヤン大仏の映像は世界に大きな衝撃を与えました。タリバーンが「偶像崇拜はイスラム法に反する」として大仏を破壊したのです。東西二つの大仏と共に、壁画も失われました。破壊した人たちにとって、約1,500年前に作られた文化遺産は何の意味もなかったのでしょうか？

日本でも昔、このような文化破壊行為がありました。明治元年に「神仏分離令」が出され、これによって各地で廃仏毀釈が行われたのです。

奈良の興福寺も大きな打撃を受けました。五重塔が25円（現在の価格で約10万円）で売られたという話も伝わります。買い手は装飾の金具が目当てで、木材は薪にするつもりだったが、解体費用が高いと知ると焼却処分しようとし、類焼を恐れた近隣住人の反対で、五重塔はかろうじて今日まで残されたのだそうです。

現在では、こんな無茶は出来ません。時代が変わったと言えばそれまでですが、なぜ文化財は大切なのでしょうか？なぜ私たちを惹きつけるのか？皆様と一緒に考えたいと思います。